

天理大学ラグビー部は2日、東京・秩父宮ラグビー場で行われた第56回「全国大学ラグビー選手権大会」準決勝に出場。関東の伝統校・早稲田大学に14・52で敗れ、ベスト4に終わった(写真)。

「関西大学ラグビーリーグ」で創部初の4連覇を成し遂げた同部。

昨年12月21日の全国大会初戦では、流通経済大学(関東大学リーグ戦3位)と対戦。前半はリードを許したものの、後半11分にシオサイア・フィフィタ選手(3年)が、この日三つ目のトライを挙げてハットトリックを達成するなど、猛攻を見せて58・28で圧勝した。

続く準決勝は早稲田大ボールでキックオフ。天理大は敵陣深く攻め込んだが、ノックオンで先制のチャンスを逃すと流れが変わり、立て続けに3トライを許して0・21と



天理大ラグビー部

天理
SPORTS
スポーツ

リードを奪われる。

反撃は31分。連続攻撃を仕掛けて市川敬太選手(同)がトライ。7・21

で試合を折り返す。

後半はフィフィタ選手のトライなどで一時14・28と差を縮めたものの、その後もミスが続ぎ、流れは早稲田大へ。次々とトライを奪われ、14・52でノーサイドとなった。

小松節夫監督(56歳)は「この試合に勝利し、新しい国立競技場で自分たちのパフォーマンスを発揮したいと思っていたが、早稲田大学の得意とする展開を止められなかった。大敗したが、選手たちは懸命にプレーしたと思う。この悔しさを糧(かた)に、来年も強いチームをつくりたい」と話した。

岡山仙治(ひまのふ)キャプテン(4年)は「相手に動きを封じられ、流れに乗りきれなかった。後輩たちには、この経験を生かして来年以降も頑張ってもらいたい」と語った。

大学選手権 決勝進出ならず